Naturalistae 24: 25-27 (Feb. 2020) © 2020 by Okayama University of Science, PDF downloadable at http://www1.ous.ac.jp/garden/

短報

岡山理科大学近隣におけるナミルリモンハナバチ（Insecta; Apidae; *Thyreus decorus*）の生息確認

鈴木浩太[1]・小林秀司[1]・高崎浩幸[1]

Confirmed habitation of a blue cuckoo bee *Thyreus decorus* (Insecta; Apidae) in the vicinity of Okayama University of Science, Okayama City

Kohta SUZUKI[1], Shuuji KOBAYASHI[1] & Hiroyuki TAKASAKI[1]

Abstract: The occurrence of *Thyreus decorus* was confirmed in 2018 and 2019 on Daimisen, a small hill in the vicinity of Okayama University of Science, Okayama City, southwestern Japan. This bee species is regarded as a rare and endangered species because of its unique habit of cleptoparasitism on some other bees (*Amegilla* spp.) of Apidae. This report is likely the first of its occurrence in this area.

I．はじめに

岡山市北区のダイミ山で，ナミルリモンハナバチ（*Thyreus decorus*）の生息を確認した．ルリモンハナバチ属（*Thyreus*）は，日本で４種が確認されており，すべてが労働寄生性である．寄主が不明の種もいるが，それ以外はフトハナバチ属（*Amegilla*）の仲間を寄主にするとされている（多田・村尾（編） 2014）．そのため本属は，寄主となる種グループにとっても良好な環境が確保されていなければ生息できない．すなわち豊かな生物多様性の指標となる岡山県野生生物目録2019（昆虫類）（http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/602836_5068216_misc.pdf，2019年11月17日閲覧）によると岡山県内において２種が確認はされているが，全区域で生息数は少ないとされている．

寄主はスジボソフトハナバチ（*Amegilla florea*）をうかがわせる巣探索行動が栃木県レッドデータブック（http://www.pref.tochigi.lg.jp/shizen/sonota/rdb/detail/18/0236.html，2019年11月17日閲覧）に記載されているほか，京都府レッドデータブック2015（http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/bio/db/ins0211.html，2019年11月17日閲覧）では「おそらくスジボソコシブトハナバチ（現スジボソフトハナバチ）を寄主とする」と書かれているものの明確には分かっていない．日本産ハナバチ図鑑（多田・村尾（編） 2014）によると，ルリモンハナバチの労働寄生対象となりそうな種は，フトハナバチ属５種：シロスジフトハナバチ（*Am. quadrifasciata*），スジボソフトハナバチ，ミナミスジボソフトハナバチ（*Am. urens*），アオスジフトハナバチ（*Am. dulcifera*）と，コシブトハナバチ属（*Anthophora*）のケブカコシブトハナバチ（*An. plumipes*）とされている．また，ルリモンハナバチ属の寄主として断定，または推定されている種はシロスジフトハナバチ，ミナミスジボソフトハナバチ，アオスジフトハナバチとされている．本報告では，可能性のあるものとして本観察地で見られたコシブトハナバチ属も含めておく．

II．ナミルリモンハナバチの希少性

ナミルリモンハナバチは，環境省2012年８月の第４次レッドリスト（http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=21555&hou_id=15619，2019年11月17日閲覧）では情報不足（DD）として掲載された．日本のレッドデータ検索システム（http://jpnrdb.com/search.php?mode=map&q=07200403701，2019年11月17日閲覧）では，青森県で絶滅危惧I類（CR+EN），京都府と群馬県で絶滅危惧II類（VU），栃木県と茨城県で準絶滅危惧種（NT）に指定される．京都府では，岩田（1975）以降は，2014年まで発見報告がない（京都府レッドデータブック2015）．大分県では，農地・リゾート開発などにより生息地の消滅や減少，宿主の生息や蜜源の減少により個体数が著しく減少しており，絶滅危惧II類（VU）に指定されている（レッドデータブックおおいた，http://www.pref.oita.jp/10550/reddata/data/text/398.pdf，2019月11月17日閲覧）．

[1]．岡山理科大学理学部動物学科，〒700−0005 岡山県岡山市北区理大町1−1．Department of Zoology, Faculty of Science, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 700-0005, Japan. E-mail to: takasaki@zool.ous.ac.jp

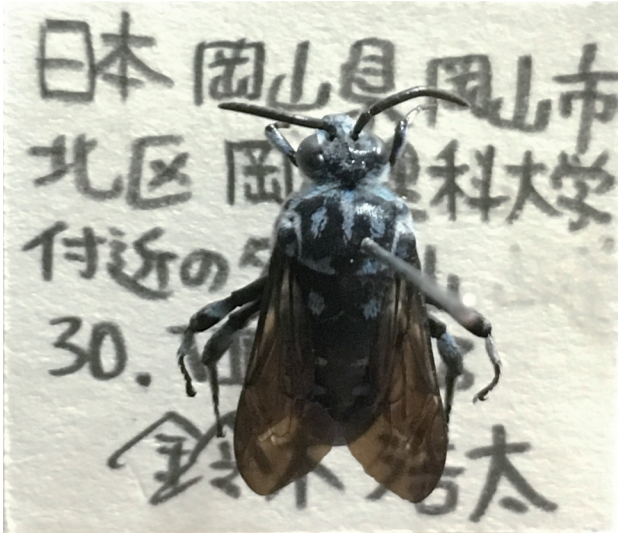

図１．ナミルリモンハナバチの標本(♂).

図２．アキノタムラソウに訪花するナミルリモンハナバチ(性別不明，2018年８月３日，鈴木浩太撮影).

2018年９月現在の環境省・生物多様性センターの生物情報・提供システム「いきものログ」(https://ikilog.biodic.go.jp/LifeSearch/detail/?life_darwincore_id=9896677，2019年11月17日閲覧)によれば，青森県では最重要希少野生生物(Aランク)，茨城県では準絶滅危惧，栃木県では準絶滅危惧(Cランク)，福井県では要注目，福島県，群馬県，長野県では情報不足(DD)とあるが，岡山県を含む他の都道府県に関する記載はない.

図３．スジボソフトハナバチの標本(♂).

図４．ケブカコシブトハナバチの標本(上：♂，下：♀).

III．ナミルリモンハナバチのダイミ山での記録

本生息地で確認した期間は，2018年８月１日を除く同年７月30日から同年８月３日までと2019年８月22日であった．観察はすべて同じ場所で，ダイミ山の岡山理科大学付近で，岡山大学農学部演習林と陸上自衛隊三軒屋駐屯地の間を岡山理科大学から加計記念体育館につなぐ山道の途中の路傍であり，すべて鈴木が確認した．当時の詳細は次の通りである.

2018年７月30日12時50分に１個体を見つけて捕獲した(図１)．７月31日は14時50分に１個体を確認した．この時，アキノタムラソウ(*Salvia japonica*)の蜜を吸いに来ていることも確認した．８月２日は16時24分から数分の間に，少なくとも３個体は同時確認した．この後，17時から１時間ほどは現れなかった．８月３日は10時56分から11時２分ほどにかけて，少なくとも２個体は同時確認した．確認日の天気はすべて晴れており，観察場所に陰りの少ない時間帯であった．図２の写真は，2018年８月３日に撮影した．

2019年は岡山理科大学付近のダイミ山を何回も訪れたものの，確認できたのは８月22日13時14分の１個体のみであり，場所も岡山理科大学からダイミ山の三角点につながる山道の途中の斜面であった．確認当時は，花のない斜面を探索している様子だった．これは，寄主の巣を探していたと考えられる．

2018年も2019年も同種が確認される前から同時期にかけて，確認場所周辺でスジボソフトハナバチ(図３)とケブカコシブトハナバチも確認した．2018年と比較して2019年の確認時期が遅く，確認数も著しく少なかったのは梅雨が遅れたこと(気象庁．梅雨入りと梅雨明けデータ，http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/baiu/tsuyu_iriake.csv，2019年11月17日閲覧)が原因で，数が減ったか活動時期がずれたからだと考えられる．

IV．ダイミ山で可能性のある宿主

岡山理科大学理学部動物学科の実習室に野外調査実習等で採集された標本が，小林によって管理・保管されている．2009年からの実習開始以来のコレクションには，本種の標本は見当たらない．しかし，本種の労働寄生の寄主となる可能性のあるケブカコシブトハナバチが見られた(図４)．すなわち，本生息地で本種の寄主にあたるのは，スジボソフトハナバチかケブカコシブトハナバチ，もしくはその両方であると考えられる．今後，岡山理科大学周辺での本種および寄主の生活史を含む生態の解明が待たれる．

謝辞

今回の報告書を書くにあたって調査と発表の許可をいただいた岡山大学農学部山陽圏フィールド科学センターの皆様と観察に協力してくれた飯尾友裕君(岡山理科大学)には心よりお礼申し上げます．

引用文献

岩田久二雄(1975)ベンビキヌスの生活の観察．pp. 253-257．自然観察者の手記．朝日新聞社，東京．

多田内修・村尾竜起(編)(2014)．日本産ハナバチ図鑑．文一総合出版，東京．

要約

ナミルリモンハナバチの生息を岡山理科大学近隣で確認した．本種はフトハナバチ属に労働寄生するという特異な生態から，多くの地域で情報不足や絶滅危惧種とされている．おそらく岡山理科大学近隣で初となる生息確認の報告である．

(2019年12月９日受理)